

ウイルスと細菌

病気を引き起こすものにはいろいろありますが、
ウイルスや細菌が大きな原因になっています

ウイルスと細菌はどう違うかご存知ですか？
両者の間での大きな違いは2つあります。



ウイルスと細菌の違い

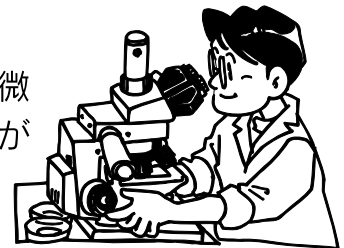
1つは大きさです

細菌は…

おもちゃ屋さんに売っている子供用顕微鏡でも見ることができます。

ウイルスは…

ずっと小さくて電子顕微鏡でなければ見るできません。



ウイルスと細菌の違い

もう1つの違いは構造です

細菌は…

1個の細胞から出来ていて、細菌が生きて増殖していくのに必要な情報と機能をすべて持っています。人間に病気を引き起こす細菌は、人間の体の中に入ると、人間の細胞に取り付きます。細菌は、取り付いた細胞の栄養を吸い取って、代わりに毒を出して細胞を殺してしまいます。栄養を吸い取った細菌は、自分で分裂して増殖します。

治療薬

細菌は自分の細胞を持っているのでその細胞を壊す薬(抗生物質)によって退治することができます。

ウィルスは・・・

ウィルスの構造は、細菌のような細胞ではなく、子孫を作るための遺伝情報しか持っていないので、増殖は、すべてほかの生物の細胞に依存しています。ウィルスが人間の体に入ると、人間の細胞の中に入り込み、その細胞に、自分のコピーを作らせます。細胞の中でウィルスのコピーが大量に作られると、やがて細胞は破裂して死んでしまいます。破裂したとき、細胞の中から大量のウィルスが飛び出し、ほかの細胞に入り込みます。こうしてウィルスが大量に増えていくのです。



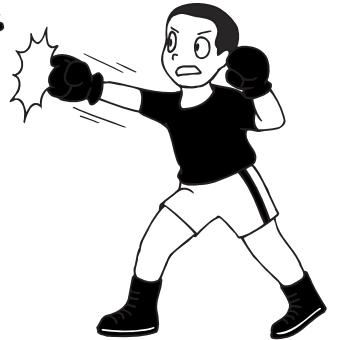
治療薬

基本的に人間の生物機能を利用して生きているウィルスに直接、有効に作用する抗ウィルス剤と呼ばれるものはほとんどありません。ウィルスを攻撃しようとする、ウィルスが入り込んでいる人間の細胞を壊してしまう恐れがあるからです。更に、ウィルスはさんざん細胞内で荒らし回った後、他の人間に感染していきませんが、その時に突然変異を起こして最初の性質を変えていくことがあるので、前に効いた薬が効かなくなることもあります。



ウィルスとの戦いは、どうすればいいのでしょうか

それは、人間が持っている「病気と戦う力」つまり免疫力を使うのです。人間は、生まれつき病気と戦う力を持っています。しっかり食事をして、規則正しい生活をする事は、「病気と戦う力」をつけるために必要なのです。



一般的に「風邪」と呼ばれる症状で病院にかかったときに処方される薬の種類は

- 現れている症状に対する「対症療法」的な薬（鼻水を止める、咳を鎮める、など）
- 体に抵抗力を付ける薬（ビタミン剤など）
- 免疫抵抗力の弱った体が万が一、細菌などのほかの病原菌に侵されないように防御する抗生物質



などがあります。

「風邪」は様々なことが原因となって起こりますが、インフルエンザのように、ウィルスが関わっている場合が多いと考えられます。「風邪」にかかったときに医師からもらう薬は、その風邪のウィルスを殺すものではなく、私たちの体が一生懸命戦っているときに、その戦いをサポートするものでしかないのです。

ウィルスと細菌の違い・・・分かって頂けたでしょうか？